

令和元年度多文化都市八戸推進事業補助金ワーキング会議 会議録

日時 令和2年3月25日(水)

14時00分～16時00分

会場 八戸市庁別館8階研修室

<次 第>

1 開 会

2 会 議

(1) 令和2年度多文化都市八戸推進事業補助金の審査について

(2) その他

3 閉 会

●事務局

ただ今から令和元年度多文化都市八戸推進事業補助金ワーキング会議を開催いたします。

本日は委員の皆様全員が出席されておりますので、会議が成立することをご報告申し上げます。

それでは、ここからの進行は座長にお願いいたします。

●座長

それでは、議題1「令和2年度多文化都市八戸推進事業補助金の審査について」、事務局より説明願います。

●事務局

それでは、多文化都市八戸推進事業補助金の審査についてご説明いたします。

補助金審査基準、申請一覧、申請書類一式及び採点票を配布してございまして、本日は計4件の審査をお願いいたします。

順に概要をご説明いたします。1件目の申請ですが、事業名は「伝統芸能の時間」、申請者はチーム邦楽の時間です。本事業は、平成30年度も補助金を交付している事業であり、前回は「新むつ旅館」を舞台に実施いたしましたが、今回は同じく国登録有形文財である更上閣を舞台に、落語・長唄・舞踊を披露するものでございます。実施日時は5月30日で、日本の伝統文化・芸能の発展・継承や新たな文化活動へつなげることを目的としており、様々な伝統文化・芸能が融合した取り組みと考えております。補助対象経費は43万円、入場料収入等を差し引いた補助申請額は上限の10万円でございます。

次に、2件目の申請ですが、事業名は「ガウディウム—綴る・和—」、申請者はガウディウム実行委員会です。実施内容は、地域で活躍する手仕事作家が教える、大人のための物作りワークショップイベントで、時間をかけてものづくりに取り組むことができる貴重な機会であり、また、21時までの開催ということで仕事帰りの方も気軽に参加していただけるよう工夫もなされております。実施日時は5月15日金曜日から16日土曜日、場所は南部会館となります。地元で活躍する作家と直接触れ合い、体験することの重要性のみならず、様々な年代や業種間の交流の場にもなるのではないかと期待

しております。補助対象経費は13万6千円、補助申請額は同額の10万円でございます。

次に、3件目の申請ですが、事業名は「夏休み子どもワークショップ「Liberi リーベリー」」、申請者は2件目と同じく、ガウディウム実行委員会です。実施内容は、書道・絵画を含め、手仕事作家が講師となり、20種類程のワークショップを開催し、夏休みの宿題を手仕事作家がお手伝いをする企画で、実施日時は7月24日金曜日から25日土曜日、場所はYSアリーナ八戸ホワイエを予定しております。先程の事業と同様、地元作家と直接触れ合い、体験することで事業の対象者である小学生のものづくりに対する知識や教養の涵養が図られるものと考えております。補助対象経費は15万6千円、補助申請額は同額の10万円でございます。

最後に、4件目の申請ですが、事業名は「着物でファンタジー～ディズニーの名曲を着物で踊ろう～」、申請者は泉彩菜日本舞踊稽古所です。実施内容は、昔話「かぐや姫」や「浦島太郎」の日本舞踊鑑賞のほか、ディズニーメドレーに乗せて日本舞踊を学び、着物を着ての体験及び発表を行うもので、実施日時は11月3日となります。対象者は5歳から高校生までとしており、普段着物を着る機会のない世代が伝統文化・芸能を気軽に体験できる貴重な機会であるほか、会場となる南部会館は畳敷きであることから、そういった意味合いでも和風建築物の良さを実感していただけるものと考えております。補助対象経費は8万2千円、補助申請額は6万4千円でございます。

ちなみにですが、5月の開催を予定している事業について、新型コロナウイルスへの対策をどのように講じる予定なのか確認したところ、1番目の「伝統芸能の時間」について、開催が難しいようであれば年度内の延期、2番目の「ガウディウム」については、必要な対策を講じたうえで開催したいとのことでした。

以上、各事業の概要の説明を終了いたします。なお、審査基準にも記載されておりますとおり、委員の皆様への採点の合計が7割以上の企画について、補助金を交付することとなっております。

採点について、提出期限は3月27日金曜日を予定しております。委員の皆様から質問等があり、申請者に確認する必要がある場合には、確認した内容を委員の皆様にお知らせしたうえで、提出期限は3月30日月曜日と考えております。

●座長

ありがとうございました。新型コロナウイルスのこともあり、開催するかしないかという問題もありますが、とりあえずはそれぞれの中身をみて審査していきたいと思っております。何か質問があればお願いいたします。

●委員

令和2年度のこの補助金全体の予算はいくらになっているのでしょうか。

●事務局

5件程度採択できるよう、予算は500,000円となっております。

●座長

それでは、1つずつみていきましょう。まずは「伝統芸能の時間」について、落語邦楽等を更上閣で実施するという事業ですが、いかがでしょうか。

●委員

この事業は2回目の申請とありますが、1回目の申請は採択されたのでしょうか。

●事務局

平成30年度に申請し、採択されております。この補助金は同じ事業で3回まで申請が可能となっております。

●座長

この方々は5年位前に自分たちで和楽器を演奏するというイベントを行っていました。そういった取り組みを、頑張っていたらっしゃる人たちですね。

●委員

チケットをどのように販売しているのでしょうか。個人で販売すると、お客さんが固定化されてしまうため、いろんな方に見てもらえればと思うので。

●事務局

確かにこの申請書には販売方法についての記載はありませんが、前回事業実施は出演者の手売りがほとんどでした。おっしゃられたとおり、友人・知人等の近い方が多く、ちょっともったいないと感じたことを私どものほうからも意見させていただきました。ということもあり、今回は新規の方、こういったことに触れたことがない方になるべく多く見ていただけるように、会場も前回より広くなりますし、集客については工夫していただくようにお話ししたところです。

また、3月中旬よりチラシ配布やチケットの販売を予定しておりますが、新型コロナウイルスなどの影響もあり、どのようにすべきか検討しているところだとおっしゃってございました。

●委員

前回実施した様子を見に行った人から、雰囲気も良く、なかなかこういったものを見る機会はないと聞きました。企画書を読んで、知っていれば行きたかったが当時の私の耳には入ってきませんでした。結局、先ほど意見があったように広報の仕方の工夫が必要だと思いましたが、八戸にこれだけの人がいるということを表現するには良い事業ではないでしょうか。

●事務局

東京からアーティストを呼ぶのではなく、演者も八戸市民だということでそれでも見ごたえがあるものだと思います。

●委員

中央から演者を連れてきて、チケット何千円という金額を取ってイベントを行うというのは、イベント屋さんがやればそれで済むことですが、八戸にいて、安価なチケット代でこういった機会を提供してもらえるのであれば、最大限の後押しをしても良いのかなと思いました。

●委員

この補助金に採択された場合、市のほうでは広報とかで周知するのでしょうか。

●事務局

広報はちのへは締め切りが事業実施の2か月前ということもあり、間に合えば可能な限り掲載したいと考えております。また、市のホームページへの掲載は行う予定でございます。

●委員

会場となっている更上閣の指定管理者のほうでは、何か広報するのでしょうか。せっかくの事業なので、広く知らしめるような工夫があると良いと思います。

●事務局

管理されている施設の情報として、周知することはあると思います。

●委員

出演者を見ると、個々にその分野では名の知れた方というか、その人自身に集客力がある方ばかりなのですが、この事業に関わらず、事前に新聞で広報する・ラジオ（BeFM）で広報するなどあれば、こんなイベントがあるんだ、と集客につながるのではないかと思います。

●座長

新型コロナウイルスの問題もありますが、年度内の延期ということで、更上閣であればそれも可能でしょう。他に質問がなければ、次の事業について審議したいと思います。

次の事業は「ガウディウム—綴る・和—」ですが、これは2016年から年に1回程度イベントを行っているようです。何か質問等がありますでしょうか。

この事業は終日ワークショップを行うということで、働いている方々もターゲットになっています。

●委員

作品の販売はあるのでしょうか。

●事務局

あくまでワークショップということで、販売はないと聞いております。各ワークショップにかかる材料費は頂戴するとのことでした。

●委員

ワークショップの内容を見ると、時間がかかりそうなものもありますが、こういったことへの興味のきっかけになるとと思います。

●座長

こういったワークショップが最近流行しているのでしょうか？

●事務局

クラフト市は盛んだと思います。また、出店予定の飲食以外のクラフト作家の皆様は、市内各所で開催されているクラフト市などへも出店されていたように思われます。

●委員

八戸にもこんなにクラフト作家がいるのであれば、自分で作る・体験するよりも作家の方が作った作品が欲しいと思うし、その作品がいろんなところで売られているほうが公的にも産業的にも良いのではないかと個人的には思います。

この事業は参加型で、ものづくりの楽しみを知ってもらうというのがコンセプトだと思うが、わざわざこんなに時間をかけてワークショップをするのに、材料費くらいしかないというのはもったいないように感じます。

●座長

補助金の性質上、販売が主になったら補助金の交付が受けられないと思いますが、どうでしょうか。

●事務局

申請の時にも相談がありましたが、補助金の要領の中で「営利を目的とするもの」に対しては対象にならないということは説明しており、申請者の方々もそこは認識しております。

●委員

営利を目的にできないという規則があるとしても、この内容で本当に作家の方々の次の活動につながっていくのだろうかという疑問に思います。せっかく補助金を出すのであればもう少し、この活動の主役である作家の方々に何かメリットになるようなことが必要かなと思います。

●座長

ワークショップブースに自身の作品を展示するだけでも、その時の販売はないとしても宣伝の効果があるのではないのでしょうか。

●事務局

一部販売も伴っているということ自体はこの補助金に抵触するわけではないため、ワークショップはワークショップとして実施してもらう中で、先ほどの意見にもあったように作家の方々の作品も購入できるというのがあっても問題ではないと考えております。

●座長

販売がメインでなければ問題ないということですね。

●事務局

今回委員の皆様からこういう意見がありました、ということは伝えたいと思います。

●座長

他に質問等がありますか？この事業は実際に見てみないと、フライヤーなどはしっかりと作成され

ているため、申請者の方はこういった経験がある方だと思います。

では、次の事業は同じ申請者で子ども向けのワークショップ「Liberi リーベリー」となっております。開催時期が7月であり、この頃には新型コロナウイルスの流行も治まっていればと思いますが、何か質問はありますでしょうか？夏休みの宿題の手助けということですが、夏休み序盤で早いのではないかと思います、子どもたちがこういったワークショップに参加・体験するのは楽しいのではないかと思います。

●委員

書道に関して言いますと、昔、夏休みの課題を指導してほしいと、町内の子どもたちが私のところに集まってきたということもありました。それも夏休みの終わりごろと記憶しており、この事業は開催時期が少し早いかな、子どもたちがやる気にならないのではないかと感じます。

確かに、学童等で手伝ってくれないかと声を掛けられることもあり、ボランティアで指導を行う予定なのですが、書道に限らずいろんな分野のものが作れるとすれば、おもしろい事業かなと思いつつ、開催時期の関係などで人が集まるかなという心配もあります。また、単に書道だったらあの先生にお手本をお願いするというように、寄せ集めというか単品を並べているだけなのであれば、学童や私のようにボランティアでやっていることなので、独創性はあまり見られないかなと思います。

あとは、発信力が重要だと思います。こういう事業をやっているよとしっかり知らしめないと、人が集まらない可能性があるという心配があります。

●座長

これはYSアリーナでやりますよね。駐車料金が無料とかわからない人がいる可能性もあるので、しっかり周知する必要があります。日にちのこともちょっと検討が必要かなと思います。

●委員

子どもが考える場面というか、与えられた材料でそのまま作業するのではなく、自分で考えてやる要素があるのかなと疑問に思いました。チラシを見ると、答えを与えられているような気がしたため、宿題であることも踏まえ、子どもたちが自分で考える場面があったほうが良いのかなと思います。

●委員

資料にあるチラシを見ると地域性がわからないと感じたため、せっかく多文化都市八戸推進事業補助金の交付が決まったとしても少しもったいないかなと思いました。作家の方々の世代がどのくらい地域性を理解しているか、そこも非常に大事だと思います。全面に八戸色を押し出してほしいということではありませんが、地域性をどういう風に取り入れるかという視点が必要です。他の委員も懸念していたように、この事業では子どもたち自身でそれを探し出す力が養われなと思うし、その場合この補助金を出す必要があるのかなとも少し思いました。ただ、これだけの作家をまとめて事業を計画するのはすごいことだと思うし、敬意を表します。あとは地域性とかそういった視点を入れてもらえたら良いのではないかと思います。

●事務局

今、委員の皆様からあったような視点を踏まえながら、審査基準やこの補助金の性質、文化事業で

あれば何でも補助するというものではないので、同じ年度に2つの事業を申請するというケースは初めてになりますので、再度検討しながら審査していただければと思います。

●座長

作家の方々を集めて、このようにワークショップを積極的に開催するというのは大事にしてあげたいと思います。

●委員

ガウディウム実行委員会は今年の1月に発足した団体だとあります。八戸には様々な手仕事の作家がいらっしやると思いますが、この団体の他にもネットワーク化された動きというものはあるのでしょうか。

●事務局

この申請者の方は、これまでは個人個人に声をかけて集まるという形をとっていたようで、今年になって初めて実行委員会としたと聞いております。

しかし、おっしゃるとおり八戸には手仕事作家の方々が多いように感じられます。知っている範囲ですと、何人かでグループになってその時々に関体を作ってワークショップと物販を行う、それがイベントごとに編成を変えて行われているようで、ネットワーク化されているというかつながっているようにお見受けしております。

●委員

デーリー東北ホールで、昨年は開催しなかったのですがここ何年か「けやき並木の手仕事展」というイベントを開催しており、物販・クラフトよりは飲食目当てに人が集まったようだと聞いていましたが、休止してみたら「今年はやらないのですか」と問い合わせがあり、潜在的なニーズはあったと感じました。実際、クラフト市など企画すると結構手間もかかるのですが、これから新しい体制の中でやるかやらないかは検討していきたいと思っています。申請のあったイベントのように飲食を伴ったイベントで作家の方が一同に会する企画というのは、市民の関心も高いと思います。

●委員

11月に行われるはっち市が、いろんなところで派生しているのかと思います。大人向けは5月、子ども向けは7月となりますが、どのようなイベントになるのか期待です。では、最後に「着物でファンタジー」について、何かご意見等がありますか。

●委員

踊りというのは、基本的には日本舞踊ですか？

●事務局

その通りでございます。

●委員

市内の日本舞踊の方の中でも若手で、これからは発信力のある方になると思います。この事業も日

本舞踊への興味を持たせるよう、上手なタイトルをつけていると思います。

●委員

ヒップホップが若者や子どもの中で人気がある現在、対抗ではないですが、色々な形で取り組んでいかないと取り残されてしまうという危機感が日本舞踊の方にはあるのだと思います。

●座長

日本舞踊の先生方は小学校・中学校・幼稚園等くまなく誰かが関わって、教えた子どもたちの中から少しでも日本舞踊をやりたいという子を見つけていかないと、廃れてしまう可能性があることから、これまではなかったような、発信力のある企画を考えなければならないと思います。その点、この申請者の方は、ジャズとコラボレーションして発表会を開催したりと柔軟な思考を持った方だと思います。

●委員

ディズニーの楽曲には和楽器アレンジもあるのですが、オーケストラやジャズのアレンジもあるので、どのような曲を使用する予定なのか気になります。

●座長

この方は、安室奈美恵さんの曲に合わせて日本舞踊を披露したこともありますし、先ほど委員の方がおっしゃったようにジャズに合わせて踊ることもありました。どのような曲を使用するのは確かに楽しみに思います。

●委員

参加費はどのようになっているのでしょうか。

●事務局

お配りした収支予算書によると、体験する方からは500円をいただくことになっております。

●委員

参加者は20人となっていますが、せっかくの企画なのでもっと参加できれば良いと思います。

●委員

定員が20人なのは教えられる人数に限りがあるからなののでしょうか。

●事務局

そうだと考えております。教える側の目が行き届く人数ということで設定されたと思いますが、申し込みの状況等により、参加人数の増減はあるかと思えます。

●委員

こういう形でも良いから、日本の伝統を伝えていかなければならない時代に入っているのです、この

ような企画は大変貴重だと思います。

●座長

モダンバレエや日本舞踊などは、その存続に困っている状態ですから、色んな形でアプローチしていかないといけないと思います。

●事務局

今回は4件の応募があり、様々なご意見・ご質問がありましたが、何か追加で申請者に確認したいことはございますか。

●委員

全体に対してなのですが、各々どのような宣伝をするのか、どういうネットワークで広報することを考えているのかを知りたいです。また、過去の懇談会でもお話ししましたが、単独で広報するのはもちろんですが、「多文化都市八戸推進事業補助金」という冠で、まとまって市民に周知する方法も今後検討していくべきだと思います。

●委員

できれば、デーリー東北さんや BeFM さんに広報お願いするのが分かりやすく目につくというか、手っ取り早いと思いますが、若者たちは SNS を使って知るとというのがすごく多いようです。適切なツールを使って「多文化都市八戸」活動の一環として今年はどういうことがありますよ、と広報していく、広く周知することが必要だと思います。どの分野でも表現したいという人は八戸に埋もれている、あるいは八戸から出てしまっている状態であるため、そういった方々を発掘していく必要があります。そういう意味ではこういう補助金があることを広く知ってもらい、審査する側がふるい落とさなければならぬくらい申請があるようになれば良いと思います。

●事務局

今年は新型コロナウイルスの影響もあり、申請件数は少なかったが、審査結果も踏まえ再募集の可能性も検討しています。

●委員

新型コロナウイルスの影響でイベントが中止になった場合、補助金はどうなるのでしょうか。

●事務局

本番は中止となったが、準備等で費用が発生した場合は補助をする可能性もあります。

●座長

他にご意見等がなければ、これまでの話をもとに各自採点を行い、今週の金曜日までに採点票を事務局まで提出するようにお願いいたします。それでは、事務局にお返しします。

●事務局

委員の皆様におかれましては、様々なご意見どうもありがとうございました。

それでは、これを持ちまして本日の会議をすべて終了いたします。皆様、長時間のご審議ありがとうございました。